

学 校 評 価 （ 2 0 0 9 年 度 ）

『幼稚園』

1. 2009年度重点目標及び取り組み状況

2009年度は、2008年度に行った学校評価結果の中から、より質を高めていきたいと願う重点目標を決め取り組みました。

重点目標	取り組み状況
安全管理・安全指導	≪安全管理≫ (1) 遊具や保育環境の安全点検を定期的に行う。 (2) 怪我・事故に関しての事例研究を行い、その都度共有する。 ≪安全指導≫ (1) 廊下は走らない…などの安全指導を全教職員で働きかける。 (2) 怪我や事故を未然に防ぐ保育者の視点を研修する機会を持つ。
会議・研修等での積極的な意見交換	(1) 行事などの企画書を作成し、検討する点を明らかにして提案する。 (2) 事前に配布された資料の内容に関して、意見をもって会議に臨む。
小学校との連携	(1) 新指導要領の内容を理解する機会を持つ。 (2) 内部の小学校との連携は、行事の交流だけを考えるのではなく、普段から無理なく交流できる方法を考える。 (2009年度は夏期保育中に実施)

2. 総合的な評価結果

教職員自らが客観的に自分の幼稚園を見つめ直し、目標をもって取り組む一年になったように思われます。また、積極的に、自らの課題や園としての課題を発見することにも繋がっているように感じます。重点目標であった「安全管理・安全指導」に関しては、教職員としての責任感や意識の高まりが見られ、成果が出ているように思われます。今後も、引き続き配慮していきたい課題です。

今回特に、「幼児の生活が豊かになるような行事の実践により、子どもの育ちや幼児教育の大切さを伝える努力をしている」ことをはじめとして、「開かれた幼稚園」として、保護者への発信にも力を注いできました。園児指導の上でも、「クラスや学年という枠にとらわれず、教職員が一致して、子ども一人ひとりが安心して幼稚園生活が過ごせるように配慮している」項目も十分に成果が上がっていると考えられます。

また、今年度は保護者対象調査を行い、「幼稚園で行っている縦割り保育など特色ある教育活動について」「幼稚園内（保育室など）・屋外（園庭）など環境整備について」「命の大切さや人への思いやりの心を培うように努めているか。」などを含めた全ての項目において、「十分満足」「概ね満足」を合わせると、98～99%という高い評価を頂き、幼稚園の教育活動にご理解を頂けていることを実感しています。今後も、保護者からの貴重なご意見を幼稚園の保育活動に組み入れながら、互いに「育ちあい」のできる幼稚園として努力していきたいと思っています。

3. 2010年度課題

2010年度重点的に取り組んでいきたいと願う項目は、「年間指導計画での相互理解」・「教職員研修」という保育内容の更なる充実です。ここまでという到達点がない保育・教育という営みに関わっている教職員が、常に向上心をもって研鑽していくことが大切で、教職員が共通理解を持ち、協力・協働して子どもを育てることは、大事なことだと考えます。

重点目標	取り組む課題・内容
年間教育課程	(1) 聖母被昇天独自の母体縦割りクラス運営の中で、教職員が相互理解のもと、効果的な保育を行う。 (2) 教職員同士の連絡・調整の場を定期的にもち、協力・連携を強化する。
教職員研修	(1) より高度で専門的な知識や技術・技能の習得のための研修の時間を確保し、専門知識や技術を身につけようと研修・研鑽する。 (2) モンテッソーリや絵画製作の研修の時間をしっかり確保する。
学院のモットー・創立者の精神	(1) 宗教部会を中心に教職員の研修の場を持ち、一人ひとりの教職員が自信を持って園児や保護者に創立者の思いを伝えられるようにする。

学 校 評 価（２００９年度）

『小学校』

1. ２００９年度重点目標及び取り組み状況

２００９年度は、学校として２００８年度に教職員が行った自己評価結果を受け、「建学の精神の教員や児童へのさらなる浸透」「よりきめ細かな教育の実践」「一貫校として幼稚園・中学校高等学校との連携」の三項目について、重点的に以下のとおり取り組みました。

重点目標	取り組み状況
建学の精神の浸透	(1) 毎月の「創立者や聖書の言葉」を決め、『学校だより』に掲載し、教室に掲示する。朝礼・全校礼拝などでも講話を聴く機会を持ち理解を深める。 (2) 低学年から建学の精神について学びを深めるため、アフタースクールの中に「シスターのお話会」を設ける。 (3) 全校朝礼を大切にし、聴く姿勢を身につけるため、マナー指導も実践する。
よりきめ細かな教育の実践	(1) 授業力・学力向上のため、授業研究・公開授業を計画的に行い実践に活かす。 (2) 支援体制を強化するため、教職員間の報告・連携を深める。 (3) 授業以外のアフタースクールにおいても、自主勉強会や英語の放課後クラスを全学年で実施し、個に合わせた指導を行う。 (4) 全校朝礼で、服装について児童会生活保健委員会が確認し自覚を促し、学級でも指導する。
一貫校として幼稚園・中学校高等学校との連携	(1) 小学校と中学校高等学校の教職員の合同会議を行い、情報交換を行う。 (2) 併設幼稚園保護者対象に小学校行事を案内し、公開する。 (3) 夏休み中に併設幼児対象体験入学を実施する。

2. 総合的な評価結果

２００８年度の課題を受けて、建学の精神・教育目標を念頭に置き、指導計画を立てて一人ひとりを大切にしながら授業や宗教行事などを行うように努めました。建学の精神については、教職員や児童へのさらなる浸透が望まれると思われまます。また、日々の生活の中で教職員が、児童一人ひとりの健康や安全に目配りをし、人を大切にすることについての指導がなされたと考えます。よりきめ細かな教育を行うために、教職員が積極的に研究授業を行って研鑽を積みまました。子ども達をより深く理解することによって実情に即した指導を行い、さらなる教材研究や研修が必要であると感じています。

２００９年度は、「建学の精神や教育方針に則った宗教教育など特色ある教育・行事について」「子ども達の健康管理について」「校地整備・安全管理について」「楽しく登校できているか」などの項目で、保護者にもアンケートにて回答していただきました。９５％以上の方に、概ねできているとの評価をいただきました。また、礼儀正しく挨拶などができるよう指導がなされている。授業は落ち着いた雰囲気で行われているとされています。さらに目標を高く持ち、指導を重ねてまいります。教科指導においても、より確かな学力の定着に向けて取り組みたいと考えます。今後も保護者からのご意見を活かしながら、家庭と学校がともに学べるより良い教育活動を推進してまいります。

3. ２０１０年度課題

教職員自身が、建学の精神についてさらに理解を深めながら、子ども達にわかりやすく伝えるために研鑽を積みなければならないと考えます。その中で、祈りの姿勢や日々の生活習慣においても精神が浸透するよう、保護者との連携も図りながら努力を積み重ねてまいります。シスターのお話を聴いたり、シスターとお弁当を一緒に食べたりすることも、そのよい機会にしたいと考えます。

また、教職員間での報告・連携についてさらなる効果的な方策をとり、子ども達の声に耳を傾けることによって実情を把握しながら、担任と学年担当者による学年支援の組織強化を図ってまいります。

確かな学力をつけるための教科指導については、昨年度も多くの研究授業で研鑽を積みまました。授業研究の成果を活かして指導できるよう、講師を招いての教員研修などを通し、さらに授業力を高めたいと考えます。

この学校評価を、日々の教育活動を振り返るよい機会と捉え、意欲ある学校教育を行ってまいります。

学 校 評 価 （ 2 0 0 9 年 度 ）

『中学校高等学校』

1. 2009年度重点目標及び取り組み状況
2009年度は下記の項目に重点を置き、取り組みました。

重点目標	取り組み状況
生徒の学力の向上	(1) 教育課程の検討と改編 進路指導部との連携 (2) 授業運営の考察・実施 (3) 生徒データベースの構築・活用 (4) 土曜講習をはじめとする学力の向上と定着
学校内外の規律確立	(1) 生徒心得の遵守 (2) 教職員の一致した指導体制の確立
生徒相談係を中心にした支援体制の確立	(1) 指導記録見直し (2) ケース会議の開催
生徒会活動の活性化	(1) 委員会活動の活性化 (2) 生徒会組織の見直し (3) 顧問会の開催
安全教育	(1) 自転車・防犯などの講習及び避難訓練の実施
小学校との連携	(1) 小学校と中高生徒指導関係者の情報交換 (2) 小学校と中高合同の登校指導 (3) 日常生活や行事での小学校と中高の連携
夢の実現に向けてきめ細かい進路指導	(1) 進路指導の更なる充実 (2) 学力強化のための行事の充実 (3) 指定校推薦など大学との連携 (4) 進路通信など情報発信の充実 (5) キャリア教育の充実
諸教育活動の充実	(1) 人権教育・宗教行事・特別宗教活動・国際交流の充実

2. 総合的な評価結果

保護者アンケートでは「集中して学習できる環境作り」や、授業担当者へ「生徒が理解できる授業・学力向上につながる授業」を望む意見が見られました。土曜講習（より高度な内容の講習）・寺子屋学習（補習）について見ますと、まだこの制度を始めて日が浅いものの、保護者に次第にご理解を頂いているように思います。

また同アンケートでは校内や校外での規則遵守や規範意識の向上（例えば言葉使い、挨拶、バス・電車内でのマナー）を望む意見が見られました。挨拶指導は教職員による指導とともに生徒会を含めた挨拶運動を展開し、校門に立っての指導を行っています。これには80%以上の保護者から「できている」と評価をいただきました。安全教育については生徒向けのインターネット使用についての講習を行い、保護者向けにも講習を行いました。

進路指導では、指定校推薦など大学との連携については教職員の90%近くが評価しています。取り組み課題である「じっくり話し合う進路指導」については、教職員は80%以上が「できている」と評価していますが、まだ保護者には十分浸透していない様子がうかがえます。

その他に人権教育・宗教行事・特別宗教活動・国際交流についてはそれぞれの分野での活動は高く評価されています。

3. 今後取り組む課題

総合的に見ると、保護者の皆様には学校の教育に対して一定のご理解と信頼を頂いていると考えます。ただ、学力向上や、学校・社会での規律を守る規範意識などの分野では教育効果を上げる必要があると考えられます。

「土曜講習」や「寺子屋学習」は内容・時間などの充実を目指します。「分かりやすい授業」に関しては教職員間で授業参観の時間を設けるなど、教職員研修を通して教職員の授業力のアップや生徒への教科指導の充実をはかります。

校内や校外での規則の遵守や規範意識の向上は規則を守る指導とともに、社会人としてのマナーを身につける指導が必要と考えます。登・下校時の通学路での生徒指導を実施し、身だしなみの指導と社会人としてのマナーやルールの遵守の指導を行います。挨拶指導も100%を目指して指導を徹底いたします。安全教育も外部関係機関と連携して指導をします。

進学指導については、生徒のニーズにあった大学等の指定校枠を拡大することに力を注ぎます。進路指導は保護者への浸透度を高めるために、ホームページの充実や進路指導通信などで保護者への情報発信を充実させていきます。

小学校との連携は生徒指導や行事で交流を深めています。これからも連携を強化していきます。人権教育・宗教行事・特別宗教活動・国際交流は本校の特色ある活動として評価されており、今後もキリスト教の精神を基盤とする学校の特色を踏まえて、精神的な深まりや人間形成にさらなる指導の充実をはかります。